

## 2011 年度 森基金 外国語電子教材作成支援

### 「環境情報学の創造」(村井 純) 報告書

#### 1. はじめに

「環境情報学の創造」は、1 年生の必修授業であり、必修授業が少ない SFC においては、特別な科目に位置付けられる。本年度からは、秋学期のこの科目が GIGA の指定科目となり、英語で開講されることとなった。英語化と同時に、さらに担当教員も増員された。村井純環境情報学部長を主担当とし、大前学准教授が「ロボットのデザイン」を、田中浩也准教授が「デジタルファブリケーション」を、笈康明准教授が「メディアデザイン」を、中澤仁専任講師が「情報とコンテンツ」を、丹治三則が「環境モニタリング」をそれぞれ 2 週セットの講義と演習で担当するという編成となった。これにより、環境情報学部で行われている、幅広いカリキュラムの一端を、「グループワークで」「つくる」という体験を得られる濃密な授業になった。さらには、伊藤穰一MITメディアラボ所長の特別講義が 1 回分設けられた。今年度は、国際化への取り組みが本格的に開始された元年とも位置づけられるが、その意味において、海外への視野を広げるに相応しい特別講義となった。

このように、充実した編成となり、今後のこの科目のひとつの雛型となるであろう授業を本年度実施できたために、講義資料とその映像をアーカイブすることで、外国語の電子教材とすることにした。また、HTML のみならず、iPhone/iPAD アプリとしても閲覧できるようにした。これによって、タッチパネルでいつでもどこでもこの授業の様子を閲覧したり、概要を確認したりすることができるようになった。これは新しい電子教材のかたちとも考えられる。

#### 2. 外国語電子教材について

本年度の講義資料はすべて英語で作成された。また、この講義が SFC-GC に指定されたために、映像へのリンクも貼ることができた。講義部分だけではなく、実際に「もの」をつくる臨場感を記録しておくにあたって、これは大変に効果的であった。また、iPhone/iPAD アプリは最終的な落とし込みの最中であるが、電子教科書が議論されている昨今の状況のなかでは、新しいチャレンジのひとつと言えるであろう。次年度の授業での活用が望まれる。

### 3. 「ものづくり工房」について

SFCでは2010年より体育館前に「ものづくり工房」を設置している。「ものづくり工房」と連携した授業はまだそれほど多くないのが現状であるが、この科目は数少ない連携科目のひとつである。本年度も、「デジタルファブリケーションの演習」で「ものづくり工房」をフル活用した授業を行った。また、丹治専任講師からは、ものづくり工房の環境モニタリングを実施したいというビジョンが提出された。今後、ものづくり工房を活かした課題をより増やしていく予定である。また、ものづくり工房の電子教材（機械の使い方のムービーなど）も制作していけたら、より有意義な電子教材になると思われる。

他にも、「環境情報学の創造」は1年生の必修授業であるので、コンピュータールーム、メディアセンター等、学内の施設の利活用のしかたを学ぶというエッセンスも含めていくことが望ましい。

（文責： 田中浩也）